

まち・ひと・しごと創生 総合戦略
第2期（令和5年度事業分）
主要プロジェクト

<<外部検証>>

（ 評価 及び 意見 ）

令和6年3月

外部検証（評価）

No	プロジェクト名	評価
1	いいでの子大したもんだプロジェクト	A
2	豊かで活力ある地域コミュニティの形成	B
3	町民総主役化プロジェクト	B
4	いいで田園ルネサンス	B
5	子育て世帯への総合的支援	B
6	一人ひとりに寄り添う社会の実現	B
7	町民一人ひとりの主体的な健康づくりの推進	B
8	結婚の希望の後押し支援	C
9	移住・定住、田園回帰の加速化	B
10	豊かで柔軟な住環境整備	B
11	新たなツーリズムの創造	B
12	人をつなぐ、心をつなぐ交流と発信	B
13	魅力的で活力ある、力強い農林業の振興	B
14	域内循環社会の構築	B
15	地域の拠点づくりと新たな地域支えあい活動等の創造	B
16	「日本で最も美しい村」づくり	B
17	スマートカントリー構想の実現	B
18	デジタル化を活用した強固な社会基盤の確立	B
19	こだわりの産業を創る商工業基盤の強化	B
20	バイオマス産業都市構想の推進	B

外部検証（意見）

全体を通した評価・意見

- ✓ そもそも、この検証は町計画に掲げられているプロジェクトを検証するものです。計画には目標があり、その目標の達成度が外部、素人(ひいては一般町民)からもわかるように「数値目標」が定められたはずで、いくら良い行いでも、その行動がその計画から外れた内容であれば、「目標達成」とはならないと思いますし、「計画に無い行動」であれば、むしろ修正すべき事のように思います。たとえば、「図書を揃える」と言って寄付を募りながら、担当者が「良い本が無かったから」とグラウンド整備に使ったら「それは話が違おうだろう」となると思います。今回「自己評価」「内部評価」を見るに、ほとんどが「B」判定です。これは内部事情がわかるからこそ、経常業務を優先的に実施した事へ配慮したものでは無いでしょうか。もし、計画に記載していない事業で評価をすると、なんのための計画なのかとなります。本来、その業務で評価すべきならば、その「経常業務」を計画に掲げ、外部からも評価されるような数値目標を掲げるべきです。「計画には上げていない内容であったが、がんばったからB判定にする。」このようなやり方では、なんのために計画を策定し、目標を立てているのかわかりません。目標値に到達できず、CやD判定になる業務こそ、「計画がまずかったのでは無いか」、「目標値の立て方が違ったのでは無いか」となり、中間年を経過するときに「変更計画」のポイントとなるものと思います。全て(ほとんど)がAかBでは本来の計画の意義が無くなります。令和5年度は既に中間目標年である令和7年までの5年間のうち3年間が経過したことになります。よって、原則的には累計目標値の6割達成していなければ合格とは言えないでしょう。冷たいようですが、それが「計画」「目標」「数値指標」であり、それを客観的に評価しなければ、町民に対しても説明できないと思います。その意味では、自己判定、内部評価においてB判定とした部署においては、再度、「計画とはなんなのか」、「日常業務における計画の位置付け」を再確認していただければと思います。4年前から委員をしている方はご存じのことと思いますが、あれほど時間を掛けて策定した計画です。計画が町民の総意であり、その方向に進めないのであれば、早めに計画の内容や目標、数値指標を変更すべきだと思います。私個人としては、実態の判るプロジェクトはほとんどありません。全て今回いただいた評価シートと内部評価の意見という書類を読んだ限りの評価です。
以上のような視点で各プロジェクトを評価させて頂きました。
- ✓ 審議項目の数・多様性に比較して審議会の開催数が少なく(せめて3~4回開催を)、各プロジェクト内容を十分に理解しての評価ができなかった。理解不足のまま妥協的判断値を記入するのも評価を歪めているとも? 自己研鑽が足りないとの反省も踏まえつつ、町側も紙ベースの説明だけでなく、工夫をして説明責任を果たして欲しい。我々は、町議会議員ではないので、町の施策を具体的に論評する立場にないのかもしれない

が？あるいは、審議会評価そのものが町議会対策なのか？少し空しい。

No.	プロジェクト名	意見
1	いいでの子大したもんだプロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 中間年度累計目標値(以下単に「目標値」と記す。)を達成している。あらたに目標を設定してもよいのでは。 ✓ SDGs の総合学習により、町の良さ魅力を自分たちで調べたり話を聞くことをきっかけに、町に愛着も生まれるので継続していくべき。 ✓ 人間力向上の対策も必要。 ✓ もっと飯豊らしさを子どもに伝えることで、自分に自信をつけて発信できる子にしたい。 ✓ 検定費用の助成により資格取得しやすいので親の立場としても助かりますが、一般の人、特に高校生にもっと周知させて行うべき。 ✓ 算数の難問クイズは小学生でも楽しんで取り組んでいました。算数+自然など、地域環境から学ぶ一步踏み込んだ探求学習にもチャレンジしていただきたい。 ✓ 学校教育での成果は着実に上がっているように思う。社会教育での町を知る学習に期待したい。各地区公民館では、すでにいくつかの実践がなされているのではないかな。それを集約してはどうか。 ✓ 3世代同居が少なくなり、高齢者と子どもたちが接点をもてるような事業を希望する。 ✓ 引き続き進めてほしい。「中学生が先生になって小学生に教える」など、現状を越える取り組みがあってもよいのでは。 ✓ 頭が良いのと賢いのは違う。一日一個でも良いから知らなかつた事がわかればそれも学習の一つ。それをグループ毎に発表（一人ひとり）して、グループ員みんなが理解できればそれも学習と思います。 ✓ 対象が小・中学校生だけのように感じる。幼児から高校生も「いいでの子」と捉えて考えたい。幼～大人になるまで自分の興味を追求するような活動の支援ができればいいのではないかな。(例えば、相談する窓口が図書館にあって専門的な人や施設につなげてもらえたり、夏休みの自由研究を手伝ってくれる場所があったり。) ✓ KPI は、事業内容と見合っているのか？子どもや親、あるいは地域の人々のアンケートではだめなのか。(第5次総合計画22ページの成果目標のような)子どものアンケート調査は、個々のタブレットを利用して集約まで可能かどうかわかりませんが。 ✓ 個人や、領域、クラスごとの成果も行かせればよいかなと思われる。 ✓ よくこれだけの事業内容を実行してくださっていると感じた。関係者のみなさまに敬意を表します。

No.	プロジェクト名	意見
		<ul style="list-style-type: none"> ✓ プロジェクトの方向性の見直しの視点が具体的で取り組みやすそうであると思った。 ✓ 学校が苦手な子どもたちが取り残されようにしてほしい。「大したもんだ」を強調されることで、苦しくなる子どもがいないか(自己否定感を強めてしまわないか)心配している。生きていてくれることそのものが尊重される機運が醸成されることを切に望んでいる。 ✓ 個人的な提案であるが、廃校の建物や公民館の一部を利用した「学びの多様化学校（不登校特例校）」の設置を検討していただきたい。これは文科省と自治体とが直接やり取りして実現することが出来る。町民しか利用できないことから、周辺地域の不登校の子どもがいる家族が移り住んでくる可能性も高い。文科省では2027年まで全国に300箇所の設置を目指している。小さい自治体だからこそ、取り組みやすいはずである。東北地方では宮城県にしかないため、山形県内でも早期に設置することは、誰一人取り残さない飯豊町という優しくあたたかな町づくりをしているという印象につながるのではないか。また、学びの多様化学校に地域住民も活動にかかわりながら（宮城県の富谷中学校西成田教室）、やっている事例もあり、体験活動の場の提供や地域住民との交流という側面からも飯豊町の良さを活かせる気がする。 ✓ 今の学校教育は 未だ、暗記や詰め込みで、自分で考え、行動する力がつかないと多くの専門家が気付いており、教育改革が進められている。また、全国的に不登校の子どもが急増しているが、それは教育システムが合わない、教員との関係性が良くないというのが大きな理由である（全国調査の結果）ことから、文科省は「令和の日本型学校教育」を目指している。が、それに照らし合わせると、検定に合格することに力を入れることは、少しずれているようにも感じる。新たな ICT 環境や先端技術の活用等による学習の基盤となる資質・能力の確実な育成、飯豊の自然を大いに生かした探究的な学習や体験活動等を通じて、子どもどうしが、あるいは多様な他者と協働しながら、他者を価値ある存在として尊重し、様々な社会的な変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるのではないかと考える。 ✓ 優秀な担い手を育てれば育てるほど、そのスキルを活かせる職場や職業が飯豊町には少ない点も、関連する課題だと感じている。 ✓ 山形県が令和5年3月に策定した「いのち支える山形県自殺対策計画（第2期）」に基づく「SOS の出し方・受け止め方教育」モデル事業の実施を飯豊町でも行うということであるが、実施の日は決定しているのか、教えていただきたい。また、児童生徒の自死数が過去最多になってい

No.	プロジェクト名	意見
		<p>るが、「SOS の出し方教室」以外の取り組みはどういうものがあるか知りたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 「実績まとめ」のところの事業目標/将来ビジョンのところ、学力の向上ではなく→学力の向上だけではなく という表記でなくともいいのか？ ✓ いまいち、学校の行事なのか、とこのプロジェクトの活動なのか区別がついていないが、どちらでも子供に対する影響は同じなので個人的には問題なし ✓ 学力向上と郷土愛・知識を深めることへの両面对応が難しいのでは？ 重点対応が必要では？ ✓ 漢検や数検など子ども達が学校外で力を試せて資格をとれる検定を町内で受けることができたのがとても良いと思う。 ✓ SDGs について考える学習に取り組んでいること、住む地域のことを学んでいることは評価できる。参加する子供が限られている取り組みについては検討が必要。
2	豊かで活力ある地域コミュニティの形成	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 2つ目標値ともに5割以上である。個人的には研究所が実態に即した提案、活動が可能か見ていきたい。 ✓ 各世代の代表を1名ずつ任命するなどマンネリ化を解消する方法も一つ。 ✓ 一部の人で動いていて、そのほとんどが知らない人。 ✓ 具体的な活用内容がわからない。特に「いいで農村未来研究所」の事を知っている人が周りにいない。 ✓ 「いいで未来カフェ」について、プロジェクト3の事業として位置付けられている。評価できる点として挙げるのはおかしい。地域づくり推進事業で評価できる点はなかったのか？ ✓ 他地区の活動例が見えにくいので、周知方法の検討が必要。 ✓ 活動初期に関して、参加する人が固定化することは仕方が無いことだと思う。まずは、固定化した人が考えること、計画したことを形にすることをサポートしていくことで、より多くの人を巻き込みやすくなるのが大切では。 ✓ まち活や地域連携事業は、今後の進展が可能と思われる。各地区の地区計画の活動成果が不明ではないかと思われる。 ✓ 方向性の検討の【参考】のところ、とても良いと思った。 ✓ 地区ごとにここまで予算をつけてもらえることは素晴らしいと思う反面、もともと主体的な町民なら 待ってました！と活用してくれそうだが、予算を消化すればいいというような受動的な町民を生み出していることにはならないかと、少しだけ思った。そのために、「事務事業の見直し検討」にあるように、補助金活用についての発表は有効と思う。私もそのような場に参加し

No.	プロジェクト名	意見
		<p>て聞いてみたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 女性蔑視がまだ残るこの町で女性の担い手の育成となると、町民でジェンダーについて学んだり考えたりする機会も必要なのでは？と思う。（昨年同様意見） ✓ 支援助成金とセットの取り組みとは言え、地域民の自発取り組みが実施できるシステムになっていることは、評価できる。世帯数の少ない地域でも取り組みやすいものとなっているのか？ ✓ いいで未来カフェで米坂線復旧に向けてのマルシェを開催したり、中津川の雪まつりに合わせて行ったイベントなど良かったと思う。 ✓ 未来研究所の活動は評価できるが、町民からは、あまり活動内容が見えない、わからない。 ✓ 地区別計画が進んでいるように見えない。随時、進捗管理や検証を行う仕組みを機能する必要があると感じる。
3	町民総主役化プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 3つ目標値全て5割以下である。参加者も限定的では無いか。 ✓ 「いいで未来カフェ」の活発的な活動により新しい風が吹いてきている。 ✓ 広すぎて理解できないでいます。 ✓ 高齢化により進展をあきらめ現状維持になっている。 ✓ いいで未来カフェの皆さんが一生懸命町を盛り上げてくれている。コロナ禍後の活動に益々期待したい。 ✓ いいで未来カフェは、きっかけづくりとしては良い成果を得られたと思います。今後は、町民活動の自足と町の支援のバランスがカギになると思います。 ✓ 「いいで未来カフェ」で活発な活動が展開されるようになったことはすばらしい。若者や女性が地域づくり、町づくりに参画する機会がさらに増えることを期待したい。 ✓ 子ども議会の開催は小中学生の参加で町への想い、問題点等、率直な意見が聞けた。若者、女性の声を聞ける居場所づくりが必要では。 ✓ 活発な動きが徐々に見られるようになってきていると思う。継続して欲しい。 ✓ 地域づくり事業と重複しているのでは？ ✓ 若者たちが活躍しているのを見聞きしているので、評価できた。 ✓ R5の事業内容の「こども会議」はとてもいい取り組み。子どものうちから主体的に参加できる場を設けることが、主体性のある町民に育つと思うので。 ✓ 私の周りに、居場所づくりをしたいという若者がいるので、ぜひそこを後押ししていただきたい。 ✓ 昨年、意見として出させていただいた朝日町のゲストハウス松本亭に視察

No.	プロジェクト名	意見
		<p>や調査などご検討いただけただけなのか？（昨年記述）</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 生活意識が多様化する中での総花的な対応に陥りがちなテーマなため、具体策を積み上げていくことが肝要と思います。 ✓ 子ども議会は町内の代表の小中学生が出ていてもよい内容であったと思うが、それ以外はあまり何をしたプロジェクトか直接的には見えてこなかった。 ✓ 計画に対する取り組みは進んでいるが、町全体への面的広がりが無い。
4	いいで田園ルネサンス	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 3つ目標値全て0である。数値目標の指標と実際の事業が合っていないのでは。このまま事業を継続するなら指標を変えるべき。 ✓ 「飯豊の暮らし体験」は現代社会では便利なものを好む傾向のある中、先人の知恵を受け継ぐことは大切。継続すべき。各世代への拡大もしていくべき。 ✓ 国の5年毎の水田活用では畑作も不可能。耕作放棄は増えるばかりです。町民との意識の差ですね。 ✓ 近年メディア等で「水没林」の美しさを取り上げていただき、観光名所の1つになっているが、「水没林」ができた背景や白川ダム歴史も合わせて盛り上げては？ ✓ 飯豊学講座、昔語りを継承するため、観光、ツーリズムとの連携を考えた方がいいと思う。飯豊山山岳信仰の歴史も残してほしい。 ✓ KPIにたいする実績が3年間で0であるのは、何が原因なのか。それで評価をB（有効であった）としていいのだろうか。そもそもこのプロジェクトの内容がよくわからない。 ✓ 評価できる点は多々あるが、KPIに関して0件は厳しい。 ✓ 実施している内容は素晴らしいが、評価基準の一つである目標値（KPI）を満たしていない。ここは変える必要があるのではないかな。 ✓ 伝統芸能も少子化等により人口減少となり、今後の継続も危ぶまれている。芸術文化、芸能、祭り等も今後の継続のためにやり方を変えていく必要があると思います。 ✓ 自己分析と方向性の検討を具体的に表現してはどうか。 ✓ 昨年度の評価シートにあったR5年度事業「週末いいでキャンププロジェクト」が消えてしまったんですね…。 ✓ 内部検証にもあったが、水没林や森のライトアップを数値目標に反映させてもいいと思う。 ✓ 昨年同様の提案であるが、子どもたちのための「プレーパーク」があれば、家族での移住を考える人も出てくるかもしれない。田園を活かしたどろんこあそびが出来たりとか。

No.	プロジェクト名	意見
		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 色々なイベントや活動を行っているのは知られているが、それを町外や県外にも積極的に PR 動画（YouTube など）してはどうか？町の人達が楽しんだり学んだりしているという、暮らしがりを発信してはどうか？⑧や⑨との連携になると思う。 ✓ 地道は取り組みを継続的にしているが、目標に対して、効果的な実績がない。
5	子育て世帯への総合的支援	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 指標 3 つのうち 1 つが既に達成。事業が見えやすい。「不妊治療費補助事業申請件数」という目標値が 10 年計画の 2 年目で終了するようなものであれば、そもそも目標値として相応しかったのか、という点は残る。 ✓ プロジェクト内容が具体的明確で評価できます。 ✓ 直接の金ではなく、ソフトや環境についても必要。 ✓ 経済的な支援は十分。共働きの家族が増えているので、学童の先生不足をなんとか解消し、希望があれば対応できるようにしていただきたい。 ✓ 経済的支援が充実していること、また、おむつのサブスクや放課後こども教室の実施など成果があがっている。 ✓ 総合的支援は手厚いと思うが、子育て世帯が感じている事（不安・期待当）の想いを集約する手段も。 ✓ やっていることはとても良いことだと思います。ぜひ継続してください。 ✓ 事業内容が充実し、成果も上がっている。 ✓ 金銭的支援だけでなく、託児所や放課後子ども教室など、地域での協力を得ながら人的な支援ができれば子育ての支援だけでなく、活動内容によっては、文化の継承にもつなげうるのではないか。 ✓ 現状分析が良好。子育ては町民が関心を持っているので少しずつ良変化が期待できると思う。現状分析をプロジェクトの方向の見直しつ繋げてほしいと思います。 ✓ 事務事業の見直し検討の中にある いいで希望塾、町営ピアノ塾など、子育て世帯には嬉しいと思う。直接的なお金の支給よりも意味があると思う。 ✓ 保育料や無償化、おむつのサブスクとても良いと思う。見直し検討にある、高校生の電車賃補助は是非行って欲しい。東部の住宅団地も、梨郷バイパスができてかなり利便性もよくなったので、子育て世代にも PR して欲しい。 ✓ 取り組みは評価できる。出生増加や子育て世代の移住に対し、より充実した支援・より効果的支援を町全体で構築していく必要がある。
6	一人ひとりに寄り添う社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 指標 3 つのうち 2 つが既に達成。資料を見る限りでは、なぜ自己評価、内部評価が B なのか疑問。中間年以降の目標値をどのように設定してい

No.	プロジェクト名	意見
		<p>くか課題。</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 方向性は継続。 ✓ 物件や担当者等、個別の差が大きい。 ✓ 少しずつ周知されてきているので続けてほしい。 ✓ 引き続き養成講座の実施を。 ✓ 相談マップはとても重要なので、早期に作成していただければと思います。 ✓ 改善点の分析は良好です。一元的な困りごととの問題点を把握されていると思われます。 ✓ 今後、ゲートキーパーの研修が教職員や保護者にも広げられたら良いと思う。 ✓ 最近のマスコミ報道をみると、初期中期高齢者の孤独死、一人暮らし高齢者宅の火災・焼死等の報道が目立ちます。類焼の危険もあり、緊急通報システムや電磁調理器への理解促進と導入支援が取れないでしょうか。 ✓ ゼンリンとの連携で「要支援者台帳管理システム」が導入されるのはとても良いことだと思う。災害時にもとても役立つと思うのでこれからもどんどん進めて欲しい。
7	町民一人ひとりの主体的な健康づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 指標 4 つのうち 2 つが目標値達成。事業が見えやすい。指標としている「アプリ」は早期に目標から降ろしてはいかがか。もちろん、理由、説明は必要だが。目標値達成 2 つは主催者だけでやれる内容なだけに「参加者数」の増加を望みたい。 ✓ 各世代向けの事業があるので、多くの町民が参加してもらえるような周知方法の確立が必要。 ✓ 健康ポイント事業を若い世代の人も利用できるよう、デジタル化も含めて検討した方が良い（高齢者はデジタルは難しいのでアナログにも対応できた方が良いでしょう）。 ✓ 健康・元気・いいで町ポイント事業でカード配布は増加しながら、参加者が減少はなぜ？（5月からコロナも5類移行しているが） ✓ 健康関連アプリに関しては、導入も大変だと思うが、それよりも知容赦を増やす方法や継続利用してもらう方法は具体的に検討しているのでしょうか？ ✓ 事業目標と実施事業と分析、見直しの関連性がよくわかりませんでした。 ✓ コロナ渦の難しい事業運営だったのでは？集束の兆しも見え始めて今後の多角的な運営に期待します。 ✓ 白川ダムマラソンやクライミングなど町民が様々参加できることがあり、特に各地区でも100歳体操など年配の人も健康のために参加できるものが

No.	プロジェクト名	意見
		あるのでよいと思う。
8	結婚の希望の後押し支援	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 必要な事業だと思うし、災害があったためというのも理解できる。しかし、令和5年度で見れば、当事業は目標指標に掲げた事項の実績は全くないのであるから「D」とするべきだと思う。 ✓ 結婚にこだわらず、多様性の時代を考慮して、若者たちが気楽に集まる機会の場としてプロジェクトの方向性を見直しをしてほしい。 ✓ コロナ禍も落ち着いたので、男女が出会うチャンスになるような、ニーズに合った様々な分野のイベントを企画しては？（アニメ・ゲーム・スポーツ等） ✓ 町として婚活支援は大事だと思います。しかし、直接的な婚活イベント（マッチング）よりも、若者世代の交流・ネットワーキングがより大事だと思います。 ✓ できなかったことをしっかりC（あまり有効とは言えなかった）と評価したことは良い。人口減少、少子化を食い止める「まち、ひと、しごと創生総合戦略」のねらいに直結するプロジェクトなので今後期待したい。 ✓ 内部検証の意見にすべて同感。施策が非常に難しい。 ✓ 町が結婚を後押しする企画は、あまり費用対効果が少ないように感じます。それよりも町の人が自然と集まるイベントを実施したり、すでにある活動を充実化することや結婚して子育てしやすい環境を整備して発信することの方が重要だと思います。 ✓ 町外からの呼び込みに力を入れ、イベント等を増やして交流の場（出会いの場）を増やしてほしい。 ✓ 結婚しても転出しないような施策を。 ✓ 目標としている自分向上プログラムや関連企業数の推移が不明確ではないかと思われます。目標の変更も視野に入れるべき見当も必要と思われます。 ✓ 大雨災害の復興が優先なので致し方ない部分かと思う ✓ 町報を見る限り、結婚した人が増えているように感じない ✓ 令和5年度の予算欄が10千円と前年までの予算額から激減し、実効性のある対応とは思えません、時代の趨勢には抗えない難問？ ✓ 本町内取り組みに捕われず、同じ悩みを抱える近隣町村との連携等考えられませんか？ ✓ 町内ではなかなか参加しづらいと思う人もいるようなので、県のマッチングサイトをもっと勧めたり広めたりする必要があると思う。ただ、周囲でも結婚に興味のない人もいるので、若い既婚者や子育て世代のリアルな話を聞いたり楽しみを伝えるのも必要か…。
9	移住・定住、田園回帰	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 事業は展開しているのに、数値目標に現れない。計画に無い事業をやっ

No.	プロジェクト名	意見
	の加速化	<p>ているのでなければ、数値目標の指標を変えるべき。</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 移住相談者の定住はあったのか？ ✓ 定住するには交通、雪問題を早期に解決する事業の確立（高齢者が安心して暮らせる町）。 ✓ 移住・定住希望者がお試しできる物件（リノベーションした空き家など）を作ることが大事かと思う。 ✓ 民宿などでは、おもてなしを受けるので本当のお試しにはならないと思う。 ✓ 定住に向け、何が必要か？ 田園についても企業についても収入の確保が無いのが問題。 ✓ 質問なのですが、移住希望者の身辺調査はしているのですか？ 人口増加の点は良いことですが、近隣の方と仲良くできないと言う事も耳にしますし、前の住まいでトラブルを起こした人もいます…。 ✓ ビジネスコンテストの出場はハードルが高いため、ビジネスモデルづくりを学べる講演やすでに企業している人をつなぐ会などの企画が良いのではないのでしょうか？ ✓ さまざまな取り組みが行われているのに実績値が0のまま。数値目標が適切なのか？ ✓ 課題は、移住、Uターン・Iターン、雇用、店舗、楽しめる場所。 ✓ 移住後に住む場所の整っていることが前提でなければならないのに、移住者を集めようとするのは難しいと思います。短期的に移住他見できる家なども整備するとよいのでは。 ✓ 飯豊に住みたくても仕事が無い、不便な実情を変えないと定住は難しい。 ✓ 年配車の移住も良いが、若者、若い夫婦の銃をターゲットにした呼び込みも必要。 ✓ 町として、Iターン・Uターン移住者を、町人口の何%を目標にしているのかな？ ✓ 農業と畜産が飯豊町の基盤産業としての方針であると認識していますので、移住、定住、田園に強く結びつけることを今後も続ける必要があると思います。 ✓ 身近でもテレワークが増え、働く場所を選ばない時代になってきた中、移住者の雪の課題への支援を考慮しつつ、星空や温泉などの自然の魅力を知ってもらい飯豊町を居住地として選んでもらえるよう今後の事業に期待したい。 ✓ 東北芸術工科大学の学生と共に活動する機会を多く持っており、そこにはユニークな学生が多く、一般的なライフコースを選びたくない学生も一定数いる。在学中にそのような学生にアプローチし、飯豊町の自然資源×芸術

No.	プロジェクト名	意見
		<p>×社会課題を何らかの形にできるような、しかもそれをナリワイにできるようなことが実現したらワクワクする町になりそうな気がする。（昨年同様の提案）</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 克雪やインフラ整備等定住促進の問題点は多様で深刻、二・三世代同居の問題も＋－両面有り、新婚時と子育て世代とは親の貢献度への評価が違って来るようではあるが、同居はけっして望んではないようでもある。 ✓ まだまだPRが足りない気がする。どこに発信するのか、どこに田舎に移住したいと思っている人がいるのかをリサーチしてポイントを絞ったり、空き家のリフォームがしやすしたり、10年住んだらその土地か住宅はプレゼントなど移住でのメリットがもっとはっきりわかりやすく、双方に長く続くほうが良いと思う。 ✓ 既存の施設や遊休施設を利活用したワーケーション・テレワーク拠点整備や起業支援について、具体化してほしい。
10	<p>確かで柔軟な住環境整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 目標値の3割以下である。新築エコハウスを指標にするより、改築(リノベーション)を指標とするべきでは無いのか。 ✓ 若者のシェアハウスと高齢者のグループホームを同じ土地に建て、生活（スーパー、コンビニ、ドラッグストア、病院）できる環境づくりが必要。 ✓ 老朽危険空き家は、景観的にも良くないと思う。 ✓ 専門職大に入っている人のための住む所と交通手段をまず用意する必要。誘致もしやすいと思う。 ✓ 町内景観や子どもたちが安心して遊べるまちづくりのためにも、老朽危険空き家は早急に除去してほしい。 ✓ 空き家対策はますます重要になってくる。プロジェクトを推進してほしい。 ✓ 検討課題を踏まえ、継続の効果を期待する。 ✓ 活動は素晴らしいと思います。継続を期待します。ただし、数値目標が合っていないので見直しの必要があると思います。 ✓ 住宅診断と空き家対策は重要な事業と思われます。予算付けと実施結果が対比できるのではないかと思います。 ✓ 若者が単身で入れる賃貸物件が不足しているという課題を多く耳にしているが、方向性の検討がしっかりなされていたので、その点は評価できる。 ✓ 空き家が増えて危険なところもあるので、所有者に解体を促したほうがよいものもありそう。金額の問題で簡単に解体もできないと思うが、空き家のまま使用する人がいないとすぐに家も古くなりリフォームも難しくなるためスピードが必要か…。 ✓ 各種事業に取り組んでいるが、取り巻く環境のきびしさから、KPI 2025目標に対し、実績が停滞している。

No.	プロジェクト名	意見
11	新たなツーリズムの創造	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 目標指標「関係組織構築数」が今年度 3 組織となったことは評価できる。また、「総合窓口創設」は来年度か再来年度に創設すれば目標達成となるので可能であろう。ただ、実施事業の内容を見ると、中間年以降の数値目標は一工夫必要な気がする。 ✓ 町の活性化に重要なプロジェクトと史料。 ✓ ニューツーリズム創造課を新たに役場に設ける。 ✓ 個人旅行、海外インバウンド向けに国道 113 号沿いに体験型・交流型産業の整備。地域の特性や消費拡大につなげる。お金を使ってもらうことが重要。 ✓ 町内に足が向かないと、町民が利用するだけでは産業は継続できない。113 号を通過していくことを止めて飯豊町を感じてもらおうことでリピーターになってもらう。 ✓ コロナ禍の反動でインバウンド需要が増えたことも考えられるので、サステイナブルな取り組みがもっと必要。まず、交通手段が限られてしまっている事でマイナス要素になるかと。 ✓ 新たなツーリズムとしては、水没林を活用した観光とその後の関係人口創出が重要テーマだと思います。担当課だけではなく町として支援に期待しています。 ✓ 事業内容が充実してきているのは確かと思うが、実績値は 2 項目について向上していない。これで評価を A としていいのか疑問である。 ✓ インバウンド効果も期待しつつ情報発信の拡大を実践する。 ✓ 例えばゆり園への観光客は人人くらの集客を目標にしているのか。それに似あった施策が必要と思います。 ✓ ゆの花、ゆり根等を利用した六次産業化を進めて邦画良いのでは。 ✓ ニューツーリズムは、体験型や交流型であり、町民全体に認識を高めると宣伝効果が上がると考えられる。 ✓ たくさんの有効な創意工夫された事業内容になっている。 ✓ 様々な事業を行っていてよいと思う。引き続き頑張ってもらいたいひ、地元の農林をもっと活用できると良いと思う。(中津川以外でも)
12	人をつなぐ、心をつなぐ交流と発信	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 3 つ目標値のうち 5 割を超えたのは「参加者数」だけである。来年度か再来年度の事業展開に期待したい。 ✓ プロジェクトを継続させて定着させる。 ✓ アンテナショップでのイベント参加者数が増加しており、成果が出ていると思う。 ✓ 高円寺アンテナショップが現地での知名度不足です。物販と共に町のアピールを。

No.	プロジェクト名	意見
		<ul style="list-style-type: none"> ✓ コロナ禍の時にできなかったイベントをどんどん行って、飯豊の良さをアピールしてください。イベントをすることにより人もお金も動くので。 ✓ お米、米沢牛など魅力的な商品があるため、ふるさと納税はやり方によって急拡大できると思います。体制の再構築と成果拡大を期待しています。 ✓ 検討課題を踏まえながら継続を期待します。 ✓ モニター事業もそうですが、それぞれの事業、イベントによってどんな課題解決、地域活性化につながるか明確にしてほしい。 ✓ クラウドファンディング事業の成果が良く分かりませんでした。アンテナショップのイベント参加者増加は効果が上がり良好です。モニター事業は監視、集計を行う為なのか、良く分かりませんでした。 ✓ 外語大の人が来て小学生と交流したり、とても面白いところみだと思った。子どもたちにも刺激になり、大学生にも飯豊町をPRできるのでとても良いと思う。 ✓ アンテナショップのイベント参加者の増加は評価できるが、町や町民にとって有効的な情報発信に結びついているかしっかり検証してほしい。
13	魅力的で活力ある、力強い農林業の振興	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 既に数値目標の5倍を達成。昨年0の時点で自己評価はA、内部評価はBであった。今年度目標達成であるにもかかわらず、どちらもB判定。計画と事業課の認識に乖離があるのでは？中間年以降の数値目標の指標に工夫が必要なのでは。 ✓ プロジェクトを継続させて定着させる。 ✓ 液肥の利用率をもっと増やせたらと思う（化学肥料なども高騰しているので）。 ✓ 液肥のメリット、アピールがまだ足りないのかも。 ✓ 収入の安定が無ければ若者は来ません。 ✓ J A等と協力して考えていくことが一番有効な打開策ではないかと考えられます（難しいことはわかっていますが…）。 ✓ 農林業ではなく農畜産業に対するの事業になっている。 ✓ 検討課題を踏まえながら継続を期待します。 ✓ 六次産業化については、補助することは簡単にできるが、機械はもちろんだが商品開発やマーケティングに使えるようにした方がよいのでは。 ✓ これからは2町歩、3町歩くらいの農地面積の耕作者は廃業せざるを得ない状況になると思います。地域農家と連携して農業体験ツアー等で、Iターン・Uターン希望の新規就農研修の受け入れを行い、後継者育成に取り組んでほしい。 ✓ 自己分析の改善すべき点に、町奨励作物に関する記載があるので、今後の展開を注視していく必要があると思われます。

No.	プロジェクト名	意見
		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 農林業は、町の基幹産業であるものの米価の低迷、農業資材の価格高払、担い手不足等環境は厳しい。プロジェクトNo. 4、15 等との関連性も考え合わせると、その浮沈は、飯豊の将来像を決定づける重要課題ともいえる。経営の集約化や飯豊の名を活かしたブランドイメージの構築等できないものか？ ✓ 担い手が減っていく中、今まで以上に若い世代の力が必要になるが、知識技能収入の面で簡単に増えないため、省力的作物など普及はとも興味深いものがある。 ✓ 液肥：緩効性で肥効率を高める手法がないのでしょうか。飼料作物以外での利用の可能性が広がると思います。今後の有機農業推進については評価できるが、JAS 有機の認証推進や関連機械導入を含めた体制整備ができてない。
14	域内循環社会の構築	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 指標 2 つのうち 1 つが既に達成。もう一つが 0。評価が難しい。「バイオマス」「CO2」と言っている時に、「畑がない家庭にも補助すべき（電動生ゴミ処理機など）」は違う話だろう、と感じる。「計画遂行」の視点では無く、税の使途の公平性で議論していただきたい。 ✓ プロジェクトを継続させて定着させる。 ✓ 補助金の手続き方法を知りたい人がいても何を見れば良いかわからない人が見られる。直接役場に行って聞けない方々は？ ✓ 町民の関心度が低いように感じられる。 ✓ 継続して活動を進めてほしいです。 ✓ 電気自動車の導入や学校への電気供給が再生可能エネルギーになったことはよいと思う。なかなか表には出てこない取り組みもあると思うが、ごみの分別など身近なものだと幼稚園や小学生などからの取り組みも必要ではないか。
15	地域の拠点づくりと新たな地域支えあい活動等の創造	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 3 指標全て既に目標達成。事業も見えやすい。計画、目標、指標がもつともマッチしたプロジェクトだと思われる。自己評価、内部評価ともに B 評価なのか疑問。 ✓ 買い物支援事業→月 1 回ほほえみカーでセルカ・ツルハへ送迎 ✓ 買い物が難しい世帯に、買い物リストで注文できるようにする。 ✓ 老老になっている。 ✓ 「除雪支援」の活動は高齢者のみなさんから大変好評です。続けていただきたい。また、高齢者宅以外でも諸事情により需要がある場合は支援してはいかがでしょうか？ ✓ 令和 4 年度から「町職員が地域居場所に出向き住民と語り合う」というような事業が計画されているが、実際はどうだったのか。現場から得るところは

No.	プロジェクト名	意見
		<p>多いと思うので、ぜひ実施してほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 除雪や移動支援等、地域での温度差があるように思う。 ✓ 他の事業と組み合わせて、効率的に進めてほしい。 ✓ 免許返納者に対して行政としてもっと詳細な支援が必要ではないでしょうか。 ✓ 移動販売等も検討必要。 ✓ 数値目標では、有効性が確認できる。 ✓ 少子高齢化の影響で、地区役員の成り手がいない等、問題は地域運営の根幹にかかわるところまで来ていて、実施事業量、運営方法に抜本的な改革が必要では？ ✓ 飯豊町はもともと地域での支え合いは、とても素晴らしいものがあると思う。ただ、住民が減っていく中で地域住民での助け合いにはだんだん特定の人がばかりが行い負担が集中する恐れがあるため、仕組みややり方には注意が必要。 ✓ 地域支えあい活動等を中心となって担う人が少なくなっている。
16	「日本で最も美しい村」づくり	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 3指標全て既に目標達成。中間年以降の数値目標の指標に期待。 ✓ 山林や田畑の景観維持にも人口減少、高齢化の問題は関わっていると思います。 ✓ 公・民でできることにも限界があるように感じます。 ✓ 昨年、川や道路周辺の木々の伐採が多くみられました。「景観」という視点で見ても「防災」の事も考えても地域にとって良いのか疑問に思いました。ガイドライン等はあるのですか？ ✓ 「日本で最も美しい村」ブランドを活用したまちづくりの拡大を期待しています。 ✓ 着実に成果が上がっているように思う。 ✓ 検討課題を踏まえながら継続を期待します。 ✓ 景観維持は継続が大切だと思います。効果検証を行いながら、進めてほしいです。 ✓ 目標指数ではある程度の評価ができる。 ✓ 一昨年の豪雨災害で里山近縁部の環境劣化が進んだように思います。 ✓ どこが観光客や町外から来た人、小さい子どもたちにも、みせて誇れる場所や何度でも見せたいものなのかを、町民全体で共有できればと思う。飯豊町に来たらここは見てね、という案内看板やHPなどでの写真や動画発信もあれば。 ✓ 景観の維持保全は、山林や河川などの自然・農地・住環境などに対する多くの取り組み、総合的な取り組みが必要と思われます。長期的な推進

No.	プロジェクト名	意見
		必要。
17	スマートカントリー構想の実現	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 当事業は目標指標に掲げた事項の実績は全くないのであるから「D」とするべきだと思う。計画に無い事業をやっているのであれば、数値目標の指標を変えるべき。「ほほえみカー」事業にも多額の予算を使っているのだから、こういった経常業務の継続も目標指標に掲げてよいのでは。 ✓ 計画はされているようですが、災害時にも利用することを踏まえ公共施設への再エネ設備を早急に導入していただきたい。 ✓ 数値目標の実績値すべてが3年間0では、Cとしか評価できない。 ✓ 検討課題を踏まえながら継続を期待します。 ✓ 現時点でのEV者の導入は寒冷地において時期尚早だと思います。再エネを考える際に冬季間の太陽光の活用がどこまで有効化も再考すべきです。 ✓ 年度ごとに評価するが難しい。今は低評価だが、継続していくことでスマートなカントリーを実現してほしい。 ✓ 数値目標の成果が表れていない。事業目標の見直しを行う必要があると思われます。 ✓ 相当な予算がつぎ込まれているが、成果については長い目で見ていく必要がある。非常に期待している部分である。 ✓ ほほえみカーの添乗ボランティアさんがいて下さるようになってから、とても気持ちよく利用できるようになったと数人の高齢者から聞いている。効果あり！ ✓ ほほえみカーの添乗ボランティアのチラシは見たが、あとは何をしているかわからなかった。 ✓ 各種事業・補助に取り組んでいるが、内容が見えない。費用対効果の検証が必要。
18	デジタル化を活用した強固な社会基盤の確立	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 指標3つのうち1つが目標達成。中間年以降の数値目標の指標に期待。 ✓ デジタル化は便利な反面、災害時の停電等により利用できなくなるリスクもあると思う。 ✓ 高齢者が多い飯豊町でマイナンバーカードの普及率が9割ということは高く評価できると考えられる。次のステップとして高齢者でもデジタル手続等を使いこなせるように配慮していただきたい。 ✓ 町公式LINEの立ち上げは良かったが、発信内容については検討の余地があると思います。 ✓ マイナンバーカード普及率の向上ややまがたe申請の活用など成果が上がってきていると思う。

No.	プロジェクト名	意見
		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 検討課題を踏まえながら継続を期待します。 ✓ 業務効率化は行政にとっても重要なことなので、もっと積極的に進めてほしいです。 ✓ 本会議もオンラインで行えば、中津川などの遠方の方や育児や介護で制限のある方も参加しやすいのではないか。 ✓ デジタル化は急務と思われます。他の事業と併用したり、各自のスマホを活用したことも必要と思われます。 ✓ デジタル化が進むことは時間や経費の削減・人件費の削減にもつながるが、高齢者が多い中で住民にどのように浸透させるかは難しそうである。→ある市町村では各家庭にタブレットを町が配布しているが、高齢者は使い方がわからず飾っているだけとのこと。→地域おこし協力隊が高齢者宅を回って使い方を教えるとか？いいかも。紙媒体を何年後に何パーセントまで減らすというような目標を設定するのはどうか。 ✓ 自身の法人で山形市からとある事業を受託しているが、すべてのやり取りをサイボウズの kintone を利用している。紙ベースの書類の提出は年度初めと年度末のみなので、とても効率が良い。また、その事業は住民と自治体の間を LINE が結ぶ形になっている。自治体でも使える業務プラットフォームを今後は活用するのも良いかと思う。（昨年同様記述） ✓ 若者やデジタル環境を使いこなせる人にとってはとてもありがたいのでぜひ進めて欲しい。ただ、年寄や最初からデジタル化するとわからないとあきらめている人もいるので、簡単にわかるような仕組みも必要だと思う。 ✓ 民間では各種取引・申請がネット・スマホで完結するのが、当たり前になってきている。進捗スピードが遅い。
19	<p>こだわりの産業を創る商 工業基盤の強化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 既に昨年度に目標値を達成していた。その点では「A」。ある意味、容易に達成できる目標(指標項目、数値)を設定したことを踏まえて中間年以降の数値目標の指標に期待。 ✓ 移動支援、宅配サービスの利用状況。 ✓ 販路拡大。新商品開発のまちの具体的な支援があったようには見えない。補助金だけの事業内容ではこだわりの産業に繋がらないのでは？例えば、有名シェフと小中学生がコラボし話題作りをしてもいいのでは？ ✓ 中学生からの意見ですが、高校受験の進学方向を考える前（中学2年位）に市内でできる職業はどのようなものがあるのか教えてほしい。そうすれば町内でやりたい仕事を見つけられる可能性が高くなる。将来、構内で働くという選択肢、町内から通える仕事に就くということは人口増加の一手では？ ✓ 三菱鉛筆の稼働が決まり、希望もある一方で、中小企業の問題、課題

No.	プロジェクト名	意見
		<p>について強化策が必須と思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ✓ 補助金の上限額を下げ、100%補助する方が活動が進むのではないかと。 ✓ 六次産業化を推進して、新たに雇用が生まれる施策が必要と思います。 ✓ 補助事業など各種の取り組みが計画されているが、目標とした実施に到達しているか、明確ではないと思われます。 ✓ 飯豊町商工会さんが頑張っていて、小規模事業者、個人事業主を支えてくださっていると感じている。 ✓ 町内のお店の維持のためには、お客さんが店舗に直接来なくても、デジタルカタログで町内の商品が一括で買って、職場にまで配達してくれるようなコープのようなものがあったら面白いと思う。費用と人材確保は難しいと思うが…。
20	バイオマス産業都市構想の推進	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 必要な事業だと思うが、過年度と令和5年度で見れば、当事業は目標指標に掲げた事項の実績では「D」とするべきだと思う。数値目標の指標をもう少し身近なものに変えてはいかがか。 ✓ 木材資源をペレットやチップの木質燃料としての利用が大半となっているのはもったいないと思う。 ✓ 中津川バイオマスが低収益のチップやおが粉にしている背景は何なのか気になる。 ✓ レーザー測定の活用はどうなった？耕作地の測量？全体のバランスや相互の連携が薄いと思います。 ✓ 製材して残った木材からチップ等に有効活用していることは大変良いが、木材全てチップ等にすることは「SDGs」の観点から大きく外れている。 ✓ 検討課題を踏まえながら継続を期待します。 ✓ 取組は素晴らしいと思います。林業に関しては、この事業とは別で改めて課題を整理し、取り組みをどうするか検討すべき内容だと思います。 ✓ しらさぎ荘のチップボイラー稼働を契機として森林の保全・活用や林業の活性化、バイオマス経営など、様々なことが前に進んでほしい。 ✓ プロジェクト概要、事業目標、実施計画の関連性がよく理解できませんでした。 ✓ しらさぎ荘のチップボイラーについて、しらさぎ荘に行った時に、それがわかるような表記があると、町民の関心が高まるではないか。時々、自身も利用するが知らなかった。せっかくの良い取り組みを皆さんに知ってもらいたい。 ✓ しらさぎ荘のチップボイラーは面白い取り組みだと思う。ただ木材の利用としては、木材加工品（簡単な家具やお土産になるようなものまで）がつくれ

No.	プロジェクト名	意見
		<p>て売れるともう少し活用ができるのではないか。</p> <p>✓ しらさぎ荘のチップボイラーの導入はされたが、町全体での広がりが見えない。Action 項目でも記載されているが、中津川バイオマスの今後に運営・立ち位置について検討の必要がある。</p>